

雌阿寒岳の火山活動解説資料（令和2年6月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1-①～⑥、図2～3、図4-①）

監視カメラによる観測では、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙及び中マチネシリ火口の噴煙の高さは火口縁上100m以下、その他の火口の噴煙の高さは火口縁上30m以下で、噴煙及び噴煙活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦～⑧、図5～6）

火山性地震は、ポンマチネシリ火口付近の標高1km～海面下1km及び中マチネシリ火口付近の標高0km～海面下1kmで発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。

中マチネシリ火口付近の地震回数は増減を繰り返しながら2014年以前よりもやや多い状態となっています。

火山性微動は観測されていません。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図4-②）

96-1火口南側で実施している全磁力連続観測によると、全磁力は2018年8月頃から概ね横ばいで推移していましたが、2020年4月から5月頃にかけてわずかな減少がみられました。

・地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、2016年10月下旬以降、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動が観測されていましたが、2019年夏頃から停滞していると考えられます。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（令和2年7月分）は令和2年8月11日に発表する予定です。

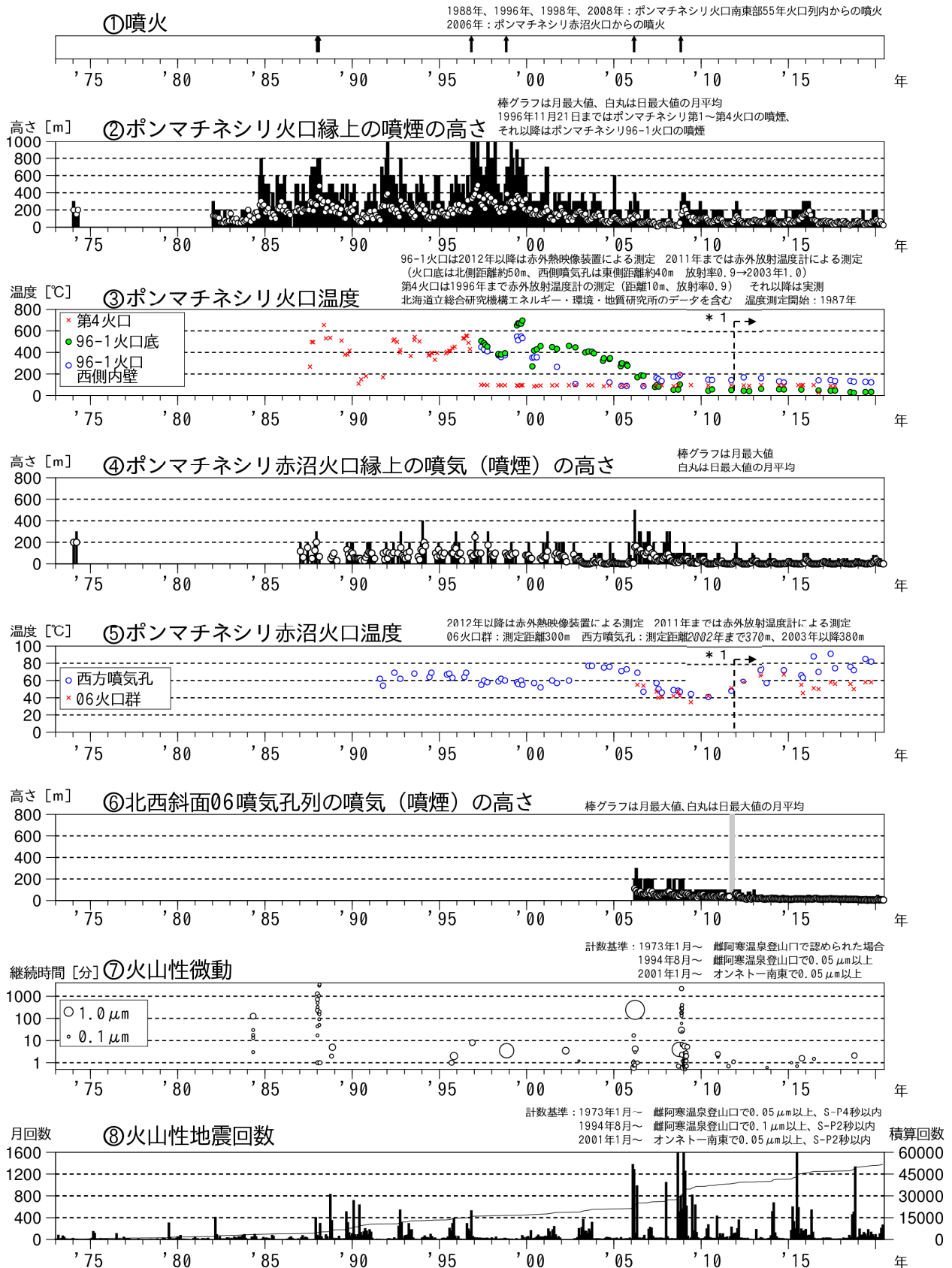


図1 雌阿寒岳 火山活動経過図(1973年1月～2020年6月)

⑥：グラフの灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。

* 1：2012年から分解能が高い測定機器に変更したため、同じ対象を観測した場合でもそれ以前の機器より高めの温度が観測される傾向があります。

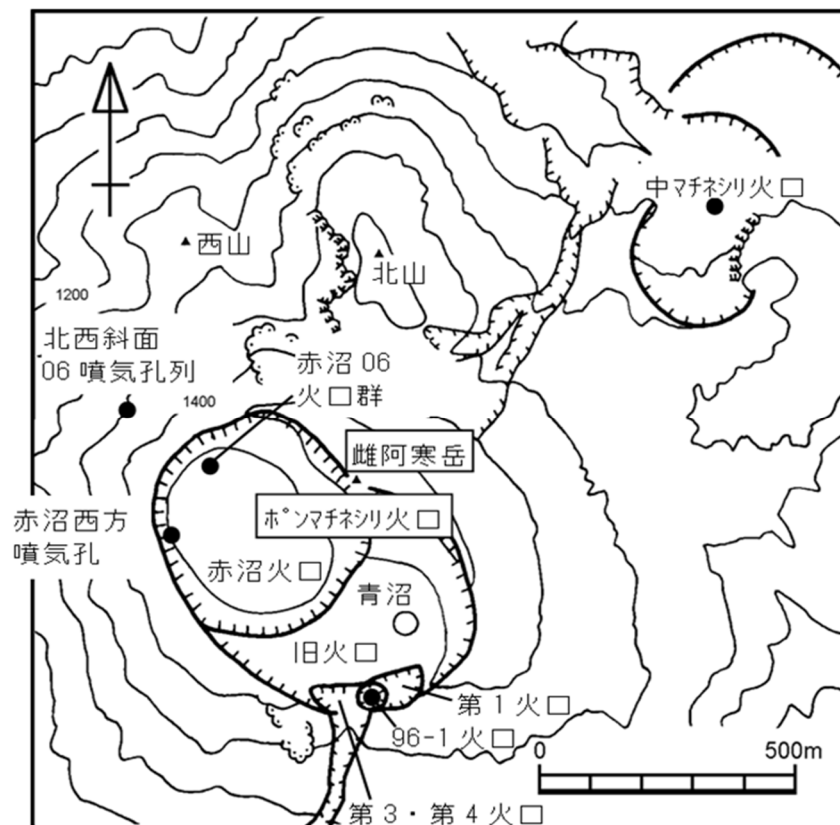


図2 雌阿寒岳 火口周辺図

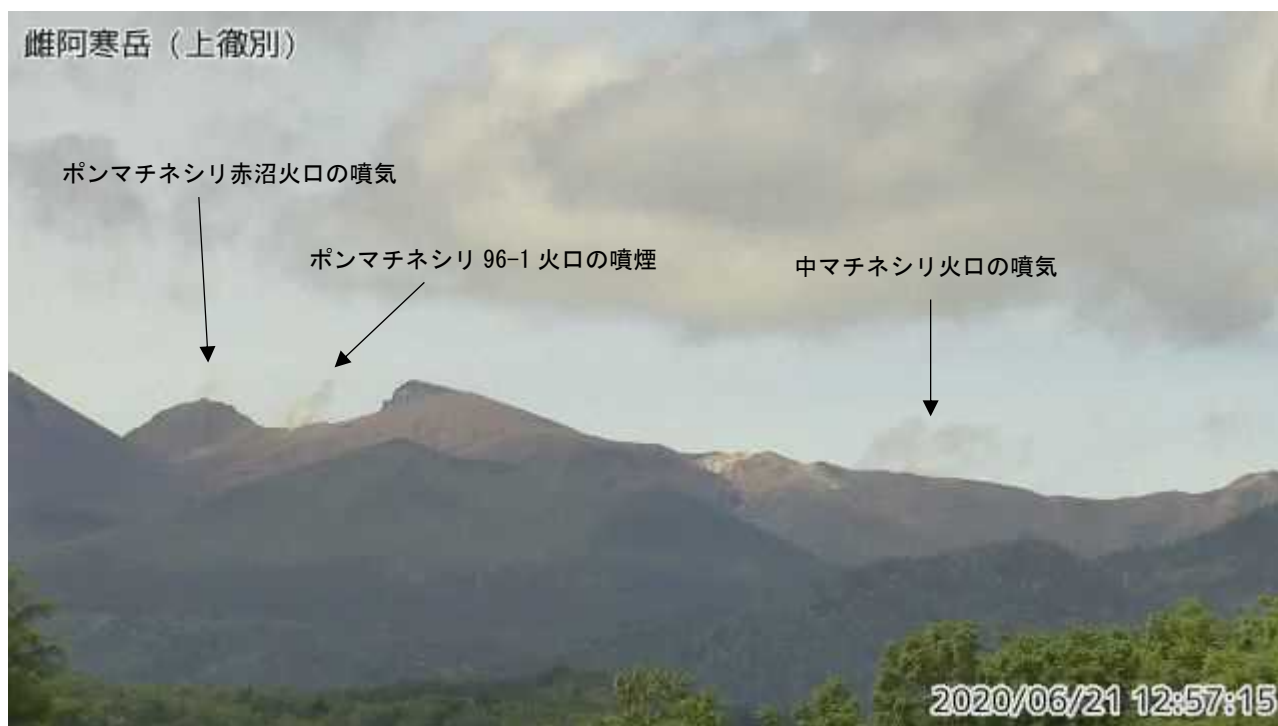


図3 雌阿寒岳 南東側から見た山体の状況（6月21日、上徹別監視カメラによる）

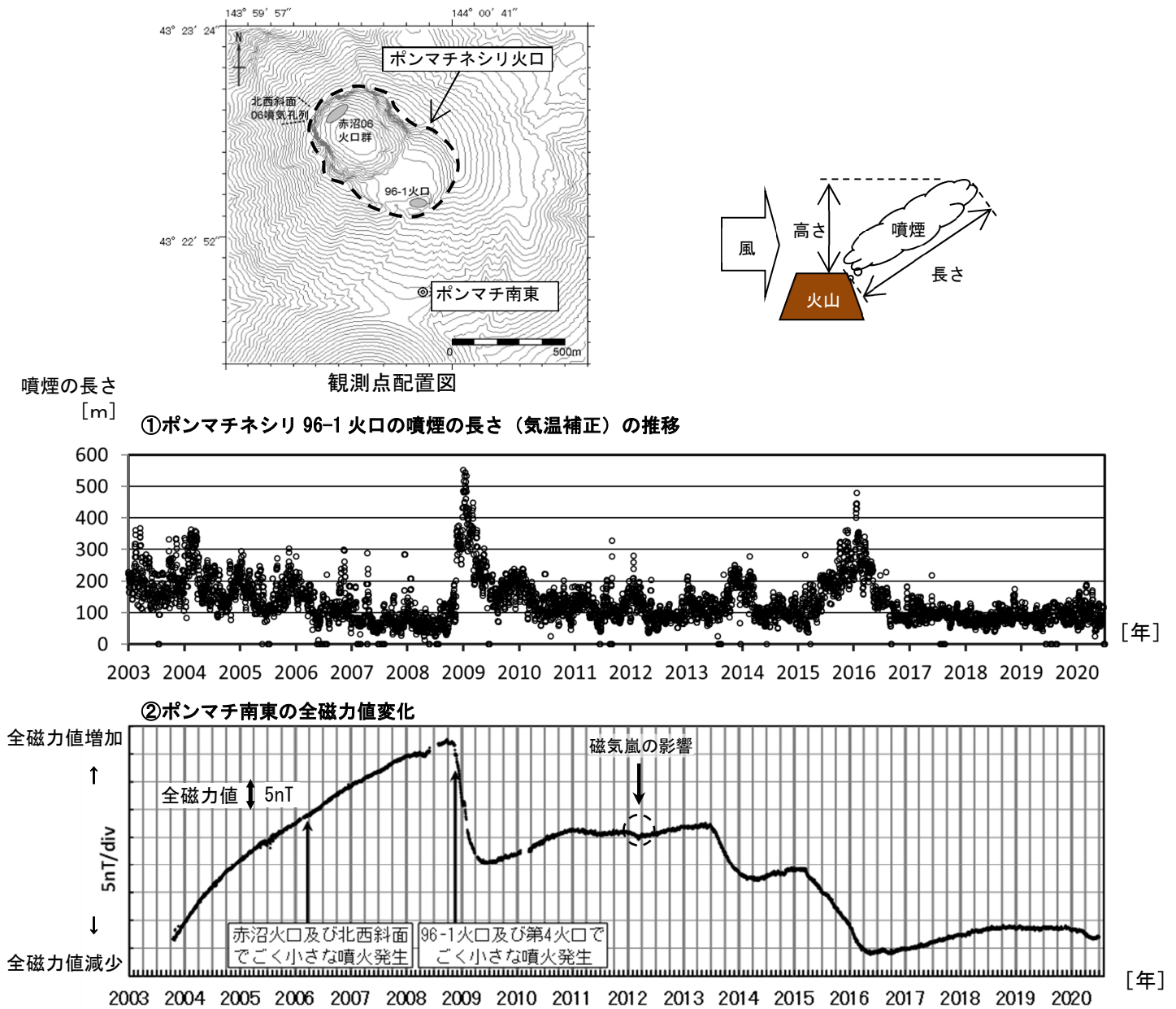


図4 雌阿寒岳 ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さ（気温補正）の推移と全磁力の比較及び全磁力観測点配置図

① : ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さ（気温補正）の推移（2003年1月1日～2020年6月30日）

噴煙の長さは、火山活動に関わらず、気温の影響を受けて気温が低い時に長く、気温が高い時に短く観測される傾向があるため、気温の影響が小さくなるよう補正した値を用いています。

② : ポンマチ南東観測点（観測点配置図◎）の全磁力値変化（2003年10月16日～2020年6月30日）

グラフには、ポンマチ南東観測点と女満別観測施設との全磁力差を用いています。空白部分は欠測期間を示します。

- ・ 2016年5月以降、噴煙量は低い状態が続いています。
- ・ 96-1 火口南側で実施している全磁力連続観測によると、全磁力は 2018 年8月頃から概ね横ばいで推移していましたが、2020 年4月から5月頃にかけてわずかな減少がみられました。

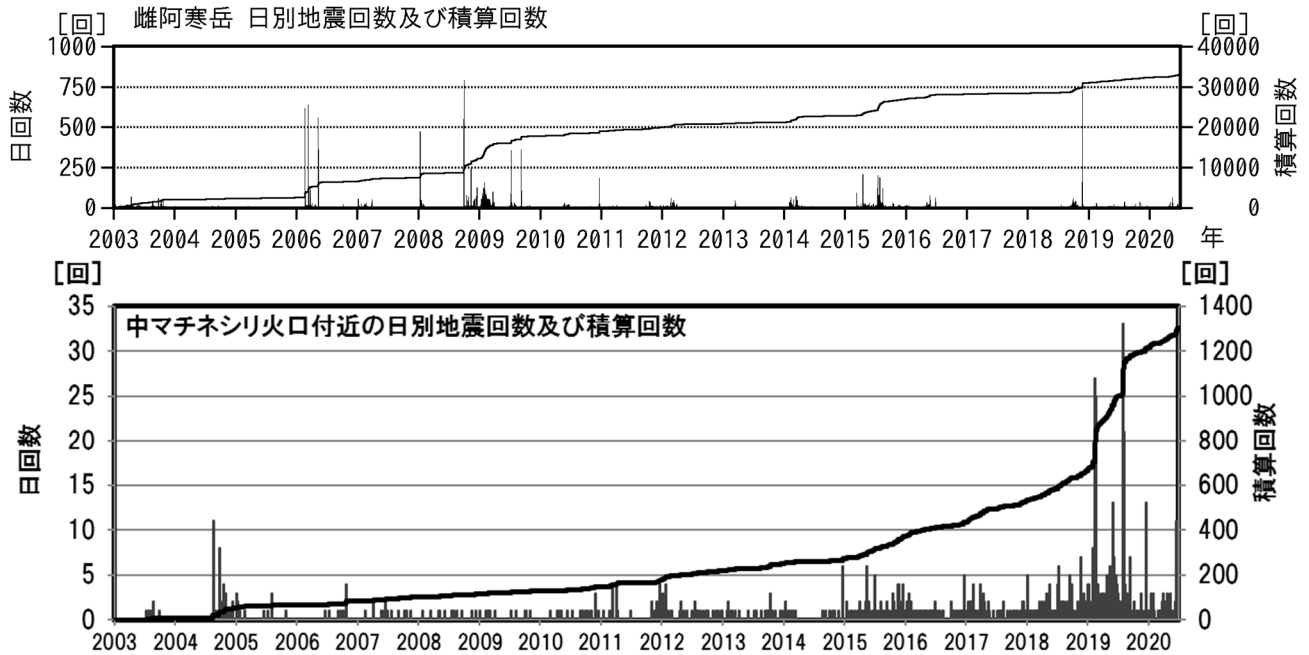


図5 雌阿寒岳 中マチネシリ火口付近の日別地震回数（2003年～2020年6月）

- ・中マチネシリ火口付近で発生する地震の回数は少なく経過しました。地震回数は増減を繰り返しながら2014年以前よりもやや多い状態となっています。

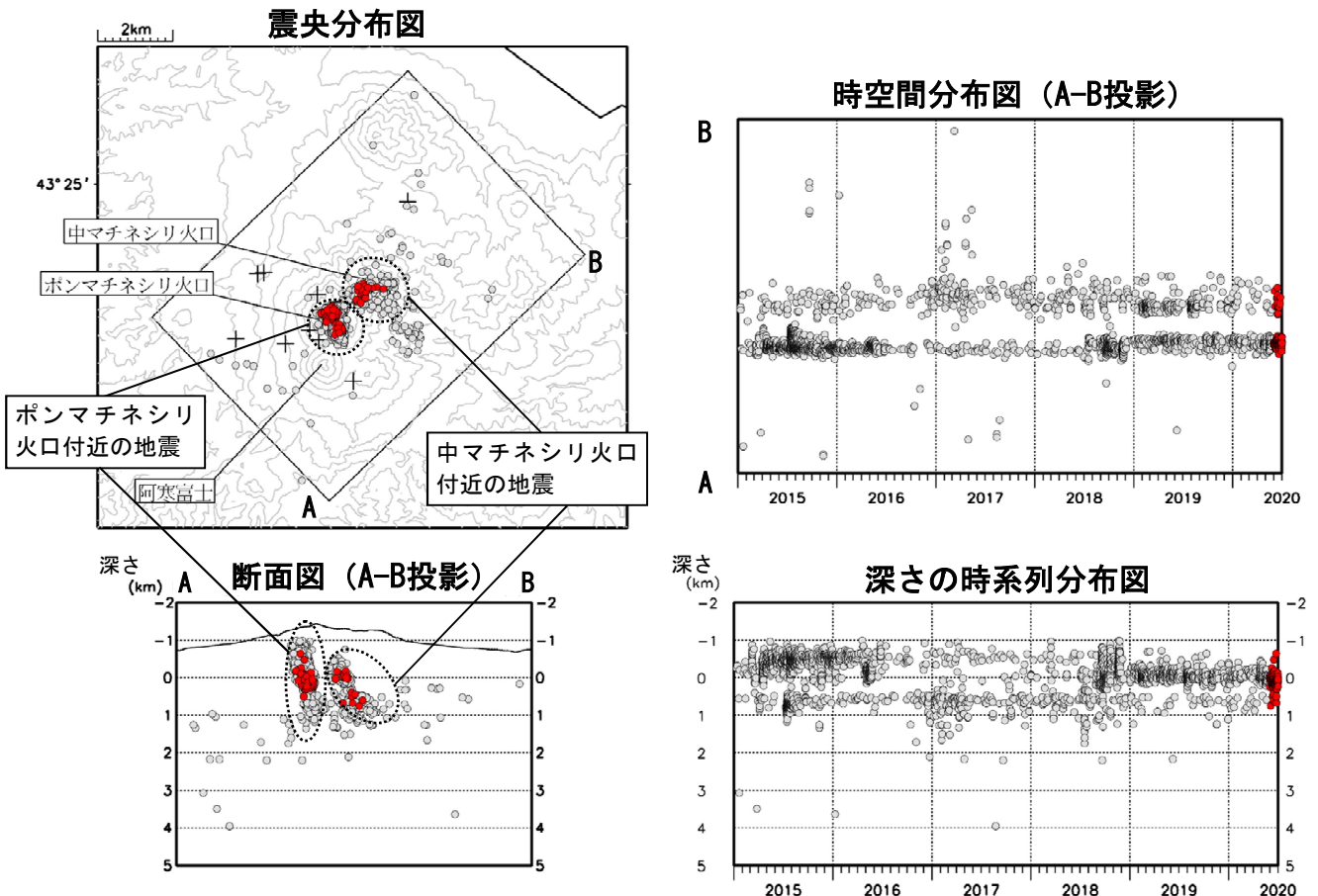
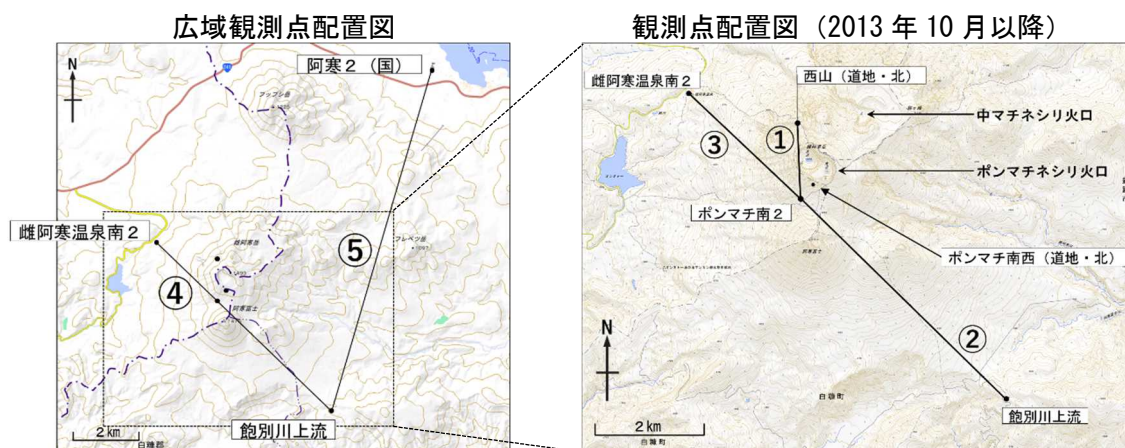
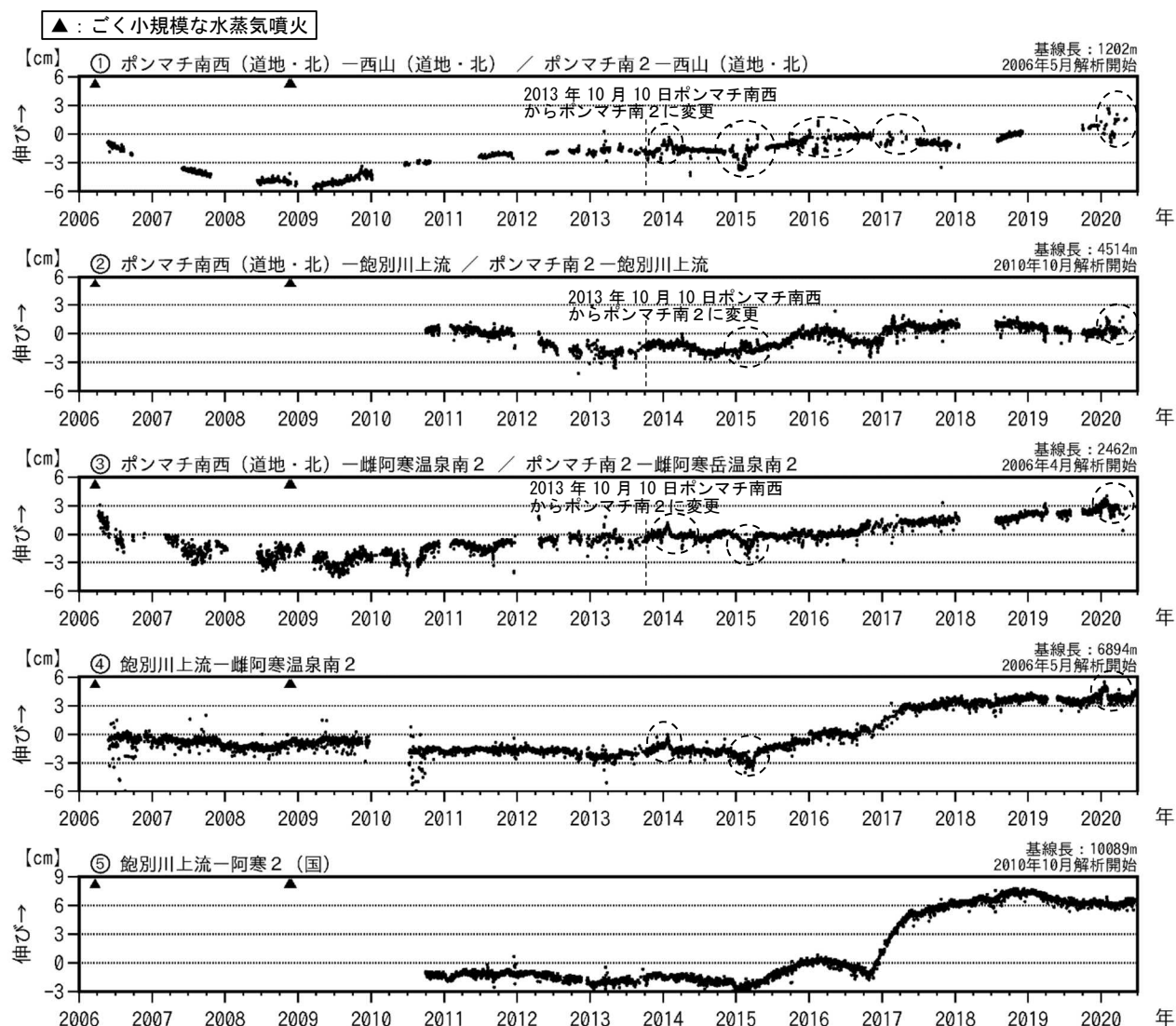


図6 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2020年6月）

- 印：2015年1月～2020年5月の震源
- 印：2020年6月の震源
- +印：地震観測点

- ・火山性地震は、ボンマチネシリ火口付近の標高1 km～海面下1 km及び中マチネシリ火口付近の標高0 km～海面下1 kmで発生しました。



（国）：国土地理院 （北）：北海道大学
（道地）：地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

図7 雌阿寒岳 GNSS連続観測による基線長変化（2006年4月～2020年6月）及び観測点配置図

基線の空白部分は欠測を示します。

点線円の変動は凍上や積雪の影響による変化を示します。

2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

- ・2016年10月下旬以降、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動が観測されていましたが、2019年夏頃から停滞していると考えられます。

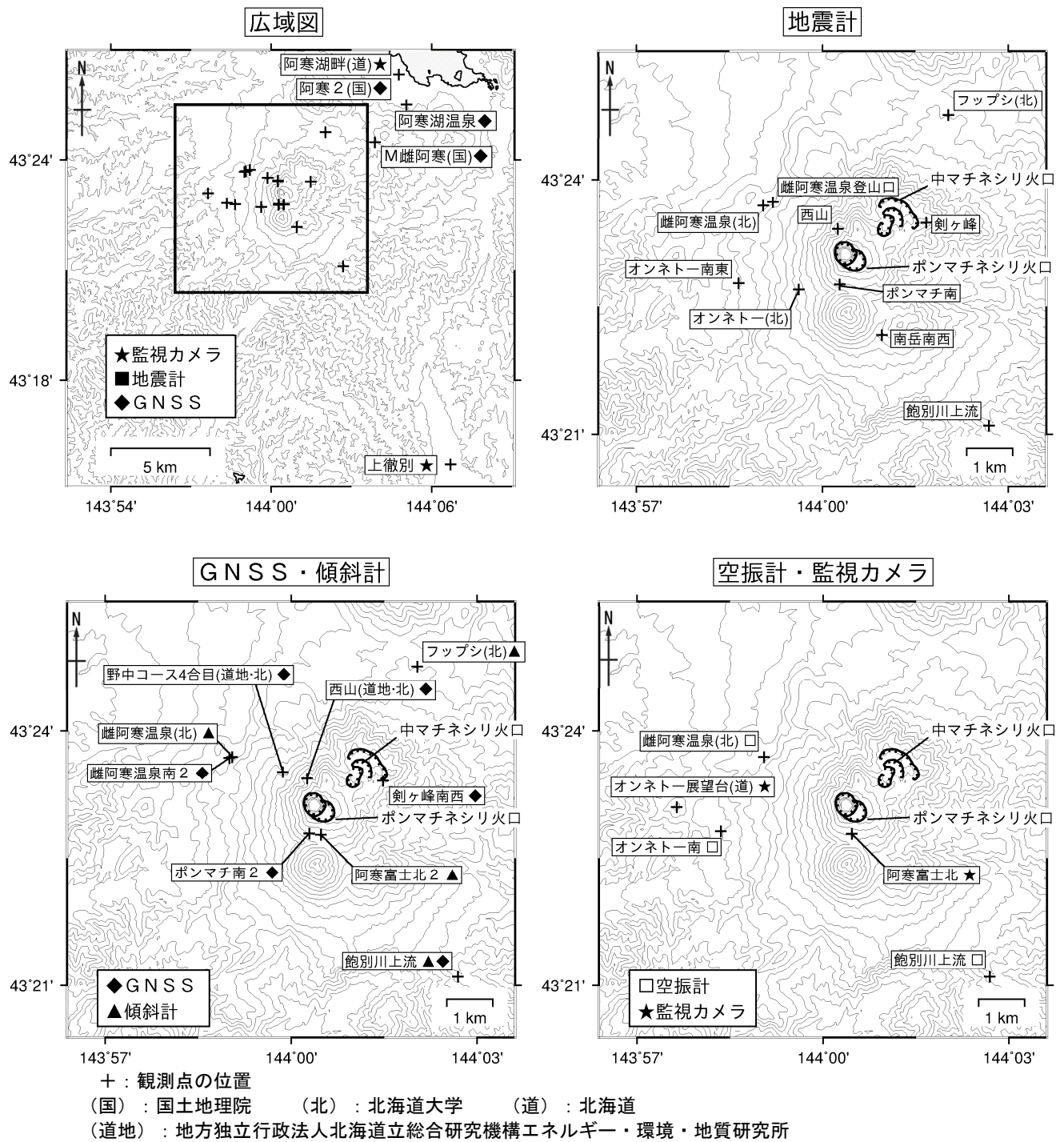


図8 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。